

## 平成30年度 自己評価及び学校関係者評価書

### 1 本年度の重点目標

## 笑顔満開! あやめ野小

～すべては子どもたちの笑顔のために～

◆二期四節の教育活動の推進

◆3Cを育てる取組

(Confidence = 自己肯定感、Communicate= 伝え合い、Challenge = 挑戦)

### 2 本年度の経営方針

(1) 子ども一人一人の自己肯定感を高める

- ・一人一人の命と個性が大切にされていると実感できる取組
- ・「あやめ野小」を母校として愛し愛される学校にする取組

(2) 確かな学び、感性豊かな心、健やかな身体を育てる

- ・学ぶ力を育て、学んだ力を確かなものにする取組
- ・教育活動を家庭・地域につなげる取組
- ・遊びや運動の幅を広げる取組

(3) 教職員一人一人の教育力を高める

- ・日常授業の取組
- ・新指導要領を見据えた取組

### 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校重点目標	「3C(自己肯定感・伝え合い・挑戦)」を重点目標とした2期4節による教育推進は、児童の確かな成長につながるものであったか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3C」のスローガンは、本校の児童にとって適切であり、保護者の理解も得られた。2期4節の教育活動を見直し、学習や活動の再構成を行うとともに、PDCAサイクルを機能させ、児童を確かに育てていく。</li> <li>・2期4節の教育活動の理解が深まるように、保護者にも説明していく。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便りを通して「3C」を育てる教育方針が伝わってくる。教職員が共通理解し、協働で教育活動を推進していることがわかる。</li> <li>・「自己肯定感を高めること、伝え合うこと、挑戦すること」は、あやめ野小学校学校の児童の育ちを確かなものにすると思う。自信をもって教育活動を進めてほしい。</li> </ul>				

学ぶ力の育成	あやめ野スタンダードプランによる指導の工夫（話す・聞く・書く）を行い、学び方や基本的な学習習慣を定着させているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>あやめ野スタンダードプランの内容について、発達段階や児童の実態に即したものであるかを分析し、共通理解をしていながら指導の充実を図る。</li> <li>学習における約束（三つの約束）の定着を図る。⇒「学習道具の準備（忘れ物をしない）」「始業前の準備（着席・学習道具）」「反応（返事）」</li> <li>「伝え合い」における目指す児童の姿について発達段階に応じた目標を設定して指導にあたり、定着を図る。</li> </ul>	A	A
	宿題を毎日出し、家庭学習を推奨してきたことで、家庭での学習習慣が身に付いてきたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力検査等の「学び直し」や重点的な指導、繰り返し学習による基礎・基本の定着の指導に努める。</li> <li>学んだ知識や技能を活用・発展させていく学習活動について、「さっぽろっ子学びのススメ」を活用しながら、家庭との連携により、更なる充実を図る。</li> </ul>	A	A
	協力教授（TT体制や少人数指導）、専科指導などの効果的な活用を図っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>TT、学びのサポーターとの連携により、個々に応じた指導や見取り、学習支援に努める。</li> <li>合同授業、交換授業、専科指導などで教員が協力し合ったり、専門性を生かしたりする中で、課題探求的・協働的な学習の指導の工夫・改善を図る。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成状況をB評価としているが、学習の様子を見るとAに達していると感じる。学校側の厳しい評価は、目標を高くもち、更なる向上を目指していることの表れであると捉える。</li> <li>児童の授業態度や学習道具の整備、ノートなどから、スタンダードによる指導の徹底がなされ、定着してきていることが理解できた。スタンダードは学習の指針として適切であり、それが子どもの姿に現れている。</li> <li>授業中、児童に寄り添い、個性を大切にしている指導の姿を見た。学ぶ力を育てる適切な学習指導である。</li> <li>学習における自主性について、家庭での学習環境（時間）も含めて、今後より一層家庭に呼び掛け、連携を図っていくことが大切である。</li> </ul>				
豊かな心の育成	自己肯定感、自己有用感を高め、思いやりの心が育つ活動や指導、命を大切にする指導の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「つながり」を深め、強めていくような児童会活動や異学年交流（ほっとプロジェクト）、行事などの取組の内容を充実させる。</li> <li>「あやめ野絆月間」を設定し、命の大切に関連した特別授業や道徳の一斉授業公開、児童集会活動などを行い、心の教育の充実を図る。</li> <li>児童の自己肯定感・自己有用感を高めるべく、満足感・達成感・充実感を得られる指導の工夫・改善を図る。</li> </ul>	A	A
	読書や自然体験、人との触れ合いを通して豊かな心が育まれる指導の充実を図っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書活動や校外学習を計画的に位置付け、様々な「ひと・もの・こと」に触れ、心を広げていくような機会を充実させる。</li> <li>学級や児童会の取組、「あいさつ週間」など心を通わせる取組を継続して行いつつ、児童の姿を通しての取組の評価・改善を行う。</li> <li>幼保中との触れ合いを深めることで、児童の豊かな心を育む。幼保小中連携交流会を開催し、校種間連携による教育活動の充実を図る。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動や縦割りの活動、学級間の交流などの組織・環境づくり、長期的な計画や指導により、子どもたちの自主的な活動と意欲の高まりを育んできていると感じる。</li> <li>子どもたちの元気に明るく挨拶する姿があり、とてもよい。「あいさつ運動」や「あいさつの木」をはじめとした学校全体での指導と取組の成果が現れてきていると感じる。まずは、挨拶ができることを大切にしながら、心から誰に対しても行える子どもの姿を願う。</li> <li>人と触れ合い、心を通わせる取組により、より一層の子どもたちの「心の豊かな育み」を期待したい。</li> </ul>				

<p>健やかな身体 の育成</p>	<p>運動や遊び、スポーツに親しみ、体力(心身の発達)の向上を目指した活動の充実を図っているか。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科体育における準備運動などで縄跳びを取り入れ、体力の向上を図るとともに運動への意欲を高める。</li> <li>・運動会や遠足、なわとび大会などの行事で目標をもたせ、体力向上の意識を高める。</li> <li>・朝遊び、中休みや昼休みの遊びにて、外遊びを積極的に奨励するとともに、運動の環境の更なる整備を図る。 (縄跳び・一輪車・竹馬・ドッチビー・50m走コーナーの設置、タイヤチューブを使用した雪山滑りなど)</li> </ul>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者 評価委員に よる意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縄跳びの取組、朝遊びや休み時間における外遊びの奨励など、運動できる環境を整備・充実させていくことで、子どもたちに達成感や自信をもたせながら、運動に積極的に取り組むことのできる態度を育てていこうとしていることが理解できた。</li> <li>・運動環境の充実により、運動に親しむ、体を動かすのが好きな子どもたちに育てていく取組を、運動能力の向上と併せて期待している。</li> </ul>				
<p>信頼される 学校の創造</p>	<p>学校全体で児童や家庭の困りを受け止め、児童が安心し、自信をもって登校できる取組を行っているか。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域訪問・懇談会・教育相談・各アンケートの実施を年間計画に位置付けて行う中で、日常的に児童や家庭の困りについて受け止める体制の充実を図る。</li> <li>・適時、校内学びの支援委員会をもち、スクールカウンセラーや外部関係機関との連携を図り、情報交換・情報交流を効果的に行う。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>安全な生活に対して児童や保護者の意識と態度を高めることができているか。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校における指導、パンフレットを活用した災害にかかわる指導、交通安全・防犯教室の実施などにより児童の安全意識や態度の向上を図る。</li> <li>・各状況(不審者も含む)や災害に応じた訓練の整備と緊急時の児童の下校体制の発信・周知の徹底により、児童、保護者への更なる安全・安心に対する意識の啓発を図る。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>A</p>	
<p>情報発信により、教育活動に対する保護者からの理解を得られているか。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育説明会・報告会、参観・懇談(年3回)、地域公開、各行事、PTA諸活動などにより、子どもの姿や成長を通して教育活動への理解を得ながら保護者との連携を図る。</li> <li>・学校・学年学級便りなどの各お便り、学校HP等を通しての情報の発信を行っていく。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>A</p>	
<p>学校関係者 評価委員に よる意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールやホームページなどの情報発信は、学校の方針や普段の教育活動を保護者や地域に伝え理解を得る手立てとして大変有効である。今後も地域や保護者との連携を図るためにも活用していくべきである。</li> <li>・様々な災害を想定する訓練は、昨今の状況を考えると必要不可欠なものとなる。登下校中なども含めて児童の安全を確保し、また、児童・保護者・地域の意識を高めていくことが必要である。</li> <li>・地域における学校の役割は大きい。学校と家庭と地域が更に連携して取組を進めることに、期待する。</li> </ul>				